

からだのとしよしつ



だより

(10号 2010/11/10)

【資料の紹介】 おすすめの一冊

『よくわかる慢性閉塞性肺疾患の基本としくみ』

(杉山幸比古著 X-Knowledge 2010.8)

- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）は、初期には自覚症状の「息切れ」が「年のせい」として見過ごされ、多くの患者さんが医療機関を受診されないことが問題とされています。
- 本書は、まずCOPDの症状や原因についての説明、つぎに疑問の多いときや発症した時の病院のかかり方、検査・診断法や最新の治療法、そして退院後の日常生活や社会生活で役立つことなどがイラストを交えてわかりやすく書かれています。
- 巻末に資料編として全国の難病相談窓口のリストが掲載されています。(Os)

「患者さんへの情報提供—医療の質と安全の確保のために」をテーマに、司書を囲んで、2010年10月20日ボランティア学習会を開きました。

「からだのとしよしつ」は、患者さんへの質の高い医学情報の提供を目的に2005年4月11日に開設されました。それから6年目。今では、医療の現場で、インフォームド・コンセントという言葉が当たり前のように見聞きされるようになってきました。

法律ではどのようになっているのでしょうか。2007年4月に、医療法の第5次改正がされ、「医療」と「情報」という文言が初めて結びついて法律に出てきました。その「第二章第一節 医療に関する情報の提供等」では、病院は、「正確かつ適切な情報提供をするとともに、患者又はその家族からの相談に適切に応ずるように努めなければならない」とうたわれています。

また、医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価する「病院機能評価」では、患者さんへの情報提供を重視し、

- ① 治療効果向上および医療安全の観点から診療への患者参加が促進されている
- ② 患者が疾患についての理解を深めるための支援を行っている

この2つを、統合版評価項目 ver.6(2009年2月公開)の「2. 患者の権利と医療の質および安全の確保」の「2. 2. 患者・医療者のパートナーシップ」の中で評価項目に加えています。

「からだのとしょしつ」では、①に関し、病院から患者さんやそのご家族に説明された「医療安全を高めるために必要な患者・家族の協力」および「治療効果向上のために患者が守るべきこと」について確認する手段のひとつとして、また

②に関しては、患者さんが疾患について理解を深め、医師との相談を効果的かつ円滑にできるように、コミュニケーション手段のひとつとして、情報提供をしています。

*大森病院は、2006年3月20日付で ver.5 の認定証を受領しており、来年1月の ver.6 の受審にむけ、準備中です。

「からだのとしょしつ」では、患者さんやそのご家族から、ご質問を受けることがよくあります。「この病気について書かれた本を読みたい」、あるいは「医師との面談に備えて病気の概要を知りたい」などと来室されます。

ご質問の意図を確認し、解決のために必要な根拠ある情報を探すお手伝いをするのが、私たちのしていることです。(M.S.)



◆なのはな文庫のご案内◆

◇なのはな文庫は、毎週火曜日の午後、おもに病棟のデイルームを巡回して本棚の本の整理をしたり、新しい本を補充するボランティア活動です。

◇一人でも多くの患者さんが、本を読まれることで日々の時間に安らぎと癒しを感じていただけたらと思って活動しています。

◇太田区立図書館からリサイクル本をいただいています。

◇なのはな文庫はこちらで活動しています◇

病棟

1号館 4階 呼吸器/循環器/耳鼻咽喉/口腔外科

2号館 4階東/5階西東/6階西東/7階西東/8階西/9階西

5号館 4階/5階

外来

1号館 1階：小児科

2階：メンタルヘルスセンター/耳鼻咽喉科

◇なのはな文庫についてのご連絡は「からだのとしょしつ」へ

発行：からだのとしょしつ ボランティアグループ
からだのとしょしつ(東邦大学医療センター大森病院2号館3階)
開室日時：9:30から16:30 土・日・祭日はお休みです。
WEB版「からだのとしょしつ」でも資料と探し方のご案内をしています。
<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/karada/>